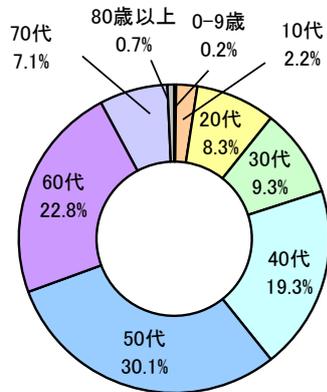


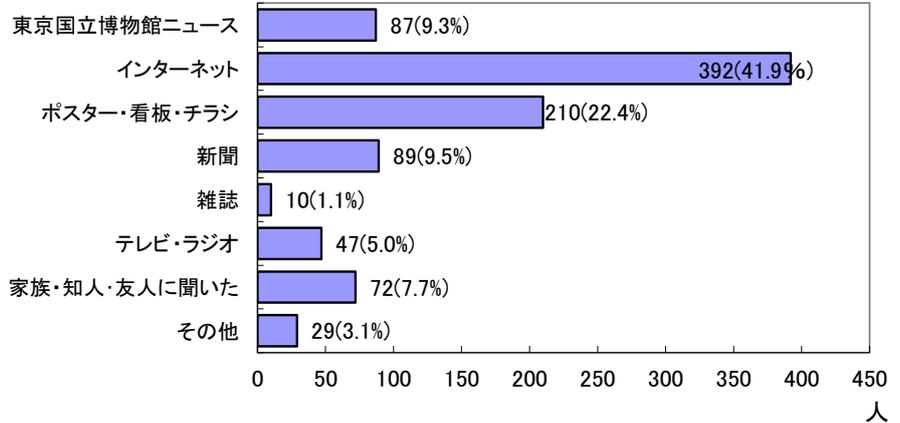
# 特別展「東福寺」 アンケート集計結果

開催期間：令和5年3月7日（火）～5月7日（日）（56日）  
 総入館者数：117,489人  
 回答者数：809人

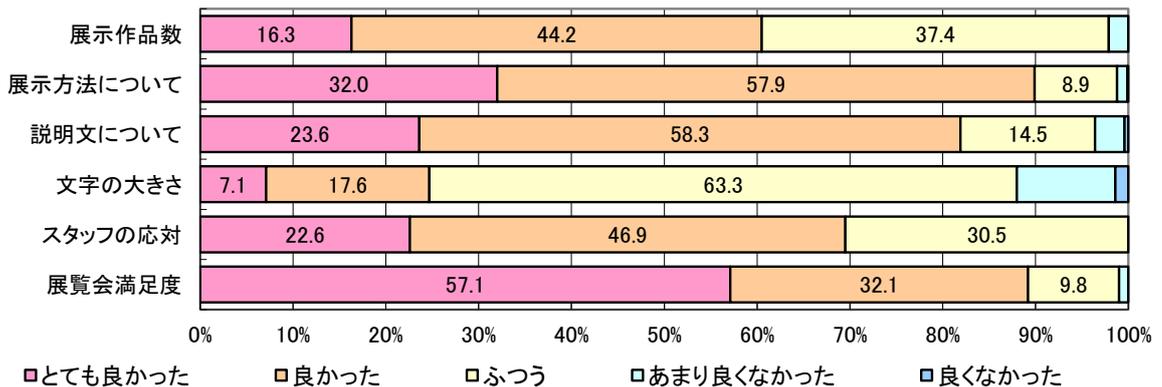
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

<良かった点>

・五百羅漢図のマンガ風解説がわかりやすかった。総合文化展でもやってほしい。

・展示室が全体的に見やすかった。  
 ・仏像コーナーが圧巻だった。通天橋もよかった。

・音声ガイドがよかった。

<不評またはご要望>

・撮影できるものが少ない。  
 ・順路と目録の作品番号（音声ガイド番号）の不一致がわかりにくかった。

・音声ガイド現金払いのみは不便。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	2.1	0.0
展示方法	1.1	0.1
説明文	3.2	0.4
文字サイズ	10.6	1.4
スタッフの対応	0.0	0.0
展覧会の満足度	1.0	0.0

(%)

新緑や紅葉の名所として知られる東福寺は、京都を代表する禅寺の一つです。日本から中国へと渡り、南宋時代の高僧無準師範に禅を学んだ円爾（聖一國師）を開山に迎えて創建されました。「東福寺」の名は、奈良の東大寺と興福寺になぞらえて、その一字ずつをとったことに由来します。東福寺の寺宝をまとめて紹介する初の機会となる本展では、「画聖」とも崇められた絵師・明兆による記念碑的大作「五百羅漢図」全幅を修理後初公開するとともに、応仁の乱による戦火を免れた貴重な文化財の数々や、巨大伽藍にふさわしい特大サイズの仏像や書画類の優品も一堂に会しました。草創以来の東福寺の歴史を辿りつつ、大陸との交流を通して花開いた禅宗文化の全容を幅広く紹介し、東福寺の日本文化における意義とその魅力を余すところなく展覧しました。

本アンケートに回答いただいた89.2%の方から「とても良かった」「良かった」と好意的なご感想をいただきました。東福寺のスケール感を通天橋や仏像コーナーの展示で体感でき、また難解な印象のある禅宗の作品・五百羅漢図はマンガ風解説がついていたことで『面白い』と感じられたようで特に好評でした。木村多江さん・子安武人さんを起用した音声ガイドも好評でした。一方で、音声ガイドの会場支払いが現金のみで不便だというご意見や、目録と展示順路の不一致に混乱したとお声もあり、よりストレスフリーな観覧環境の提供を望まれています。今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。